

なんもく 山村ぐらし通信

村内各地域で今も続けられている小正月の火祭り「どんどん焼き」子供たちの姿を見かけるとも少なくなり大人たちも大ごとだと思ってしまうようになりもうすでにその伝統が絶えてしまった地区もあるようですが、できることならば残して行きたい行事のひとつなのかもしれません。

どんどん焼きかあ。そぞろいやあめの頃は。。。

時は昭和四〇年代。私が暮らす集落では、どんどん焼きの準備は子供の仕事と決まっていた。

ガキ大将が「小屋かけ」の日を決め、正月休み明けの集団登校の折に集会所と時間が告げられる。

当日は終日陽の当たることのない冷え切った河原に集まり、流木などで「小屋かけ」を行うのである。作業はすべてガキ大将の指揮・監督の下で行われ、芯になる太い木を運ぶ者、小枝を運ぶ者、各戸をまわって正月飾りを集める者など年齢と体力によって作業内容が分担される。働く子供は男子ばかり、何とも味気ない。



日向雨沢地区、今年のどんどん焼きは雪の中での行事となりました。

当日火をつけるのはなぜか大人。休みを返上して準備にあたったガキ大将以下は大して褒められるわけでもない。どんどん焼きは村では数少ない夜の大人の

木箱のみかんを一箱崖の上から撒く。夢中でみかんを飛びつく大人たちに交じって子供もみかんを拾う。当時はみかんは今の何倍貴重



村のランドマーク「役場庁舎」時間を巻き戻すと・・・ウラ面へ

24年度10～12月空家問合せ件数

電話による問合せ	計75件
(10月)	32件
(11月)	39件
(12月)	4件
メールによる問合せ	計88件
(10月)	66件
(11月)	20件
(12月)	2件
来村空家物件訪問計	112件
(10月)	12件
(11月)	7件
(12月)	2件

子供らの影。ポケットには焼け焦げた小銭が……。ガキ大将も下つ端も区別なく、見つけた小銭は自分のものとなる。めったなことでも小遣いなどもらえない子供らにとって貴重な現金であった。焼け焦げた硬貨でも、笑顔で駄菓子を買ってくれた。雑貨屋のおばさんもいた。かくして、どんどん焼きの「小屋かけ」は、来る年も来る年も子供の仕事として引き継がれたのである。市川光早氏寄稿

2013(平成25)年2月号
通巻第4号版(冬季号)
発行責任者:石井 悟
問合せ 南牧村役場 企画情報課
電話 0274-87-2011(代表)
紙面編集:神戸 広
発行元:南牧山村ぐらし 支援協議会
代表者:石井 裕幸

星尾地区から更に奥へと進むとかの有名な線ヶ滝。しかしこの滝には見向きもせず足元の残雪を踏み締めながら奥へと進むこと1時間。目の前に現われたのは「威怒牟幾不動の滝」今の時期は落差80mはある絶壁から落ちてくるのは滴るほどの水量ばかりで滝とは言い難い。しかしそこには自然の神秘、滴が積もり積もって出来た巨大な氷塊の山。現在も成長中とのこと。今月がピークかな？



我・想・明・村

成人式はいつだったかな・・・
～その昔20才だったらしい南牧嬢さんの我想明村～

「よく来たのお。上がってお茶でも飲んでいきなさい。」そんな声が私には聞こえた。

まるで時が止まってしまったままでのような、さつきまで家人が居たようなそんな空気。

そこには確かに人がいて、生活の営みがあったのだ。なんだろう・・・この感覚。寂しいというのか、悲しいというのか、心にぽっかりと穴が空いたような、でも懐かしい不思議な気持ち。

数年間、空き家となつていく家を訪ねる機会があった。人がいなくなるってこういうことなのか。ゲートボールをしていた頃の元気が浮かぶ。いずれ空気が浮かぶ。いずれ空気が浮かぶ。いずれ空気が浮かぶ。

南牧山村ぐらし支援協議会の方々の活動をおし、村への転入者が増え、元気な村になってくれることを願っている。田舎暮らしに興味のある方、ぜひ一度南牧村へ出かけてみませんか。

この「1年を振り返って」
緑のふるさと協力隊 松田晃典さん
4月にボランティア活動で南牧村に来て様々な事を経験させてもらいました。
春夏は農業を中心に手伝いを行い南牧村特有の傾斜のある畑と戦い、来村当初は足の筋肉痛が酷かったことを思い出します。ふるさと祭では教えて頂いた伝統の八木節を披露。火とほしでは火のついた藁を回したり太鼓を叩いたりして楽しかったです。秋には一人で紅葉した山を登ったり村の奥の集落から一軒一軒歩き回りました。時には家に上がらせてもらい、お茶を飲みながら「昔は段々畑でこんなにやうく作ってたなあ」「2階で蚕を飼っていたなあ」「杉を植えたけど売れなくて大きくなって困ったなあ」など色々とお話させてもらいました。確かに杉がいたる所に植えてあり、これからの時期は花粉症がひどくなるので、なにかしら有効活用できれば良いなと思つてます。あと、村内は働く所が無く基本的に近隣の街に勤めに行く人が多すぎます。なので、この村に移住を考えている人たちにとっては少し厳しい条件になります。だから村の施策で雇える所を作るか、支援してほしいです。いい所もあるが悪い所もある。しかし少しずつでも改善していければなんとかなると思います。最後に一年間という短い期間でしたがありがとうございました。

もう少しだけ続く予定

協議会メンバー紹介 - 第四弾!



知っている人は知っている! 知らない人のためにご紹介。緑のふるさと協力隊 松田晃典君



笑点の三遊亭小遊三さんではなく茂木毅恒さん。誰だっ! 『似てる』なんて手を叩いたのは!



協議会発足当初から関わって頂いた中村さん。県庁職員のようにも見えずし、呉服屋の店員のようにも...



星尾・仲庭地区青年団を作りたい! けど青年がいない... 募集中! 職業きやめらまん 小川ひろき氏



雨沢ハイヤーのエースこと市川剛さん。夜の高崎には自信があります! ハイ!



タイムマシン〜なんもく号

今から24年前の役場にタイムスリップ! ほとんどの村民の現在の役場庁舎移行まで活方にとつては懐かしい写真。昭和30年の尾沢・月形・磐戸3カ村合併によって誕生した南牧村。その本庁舎として旧月形村役場が南牧村役場としてスタート。以後、昭和33年、39年の増改築を経て

2013年も早いもので1ヶ月が過ぎようとしています。なんもく山村ぐらし通信も4号目発行となりました。今回も色々な方々に原稿をお願いし協力していただき本当にありがとうございます。今回の山村ぐらし通信は如何だったかし

〜編集後記〜

編集長 石井 悟

ようか... まだまだ知らない南牧の歴史、魅力をこれからも取り上げていきたいと思っています。協議会で行なっております空き家情報も重ねてご協力いただければと思います。次回は春満開を迎える5月。おたのしみに。

〜陰の群像〜

村を支えるオレンジ帽子のオジサンたち

毎日厳しい寒さが続き、朝布団の中から出るのが大変つらいですね。でもこんな冬の時期を待ち望んでいる人達もいます。狩猟の人達です。群馬県においては昨年11月15日〜今年2月28日までの期間(わな猟は3月15日まで)県内各地の山中で狩猟がおこなわれています。村内でも、オレンジ色の帽子や服をまとった狩猟者を見かけることがあります。南牧の狩猟について少しお話ししますと、いまでこそ狩猟の獲物は猪や鹿など大物の獣が大半を占めますが、昭和30年頃は猪や鹿などはおらず山兔やキジ、山鳥などの猟が盛んでした。その頃から狩猟を行っている人に聞きますと、南牧で初めて猪を捕獲したのは昭和40年11月。鹿は昭和42年1月だったそうです。その時は大変珍しかったため本人宅に見物人なども押しかけ南牧広報にも掲載されたそうです。特に鹿捕獲の時は、県職員まで本当に鹿が取れたのか確認に来たくらいめづらしかったそうです。また風習的なことでは、お棚鳥という年神様を祀るため、12月末にキジや山鳥を捕獲し

柵にお供えしたり、昔の結婚式時には夫婦円満のためキジ肉を出して食べたりしたそうです。キジは夜つがいので寄り添って寝るので縁起が良いとされ、山鳥は夫婦別々に寝るので駄目なのだと教えてもらいました。それから、今の狩猟状況については、昭和40年代から50年代までの南牧猟友会員の狩猟者人数は最高で72人いたそうですが、現在では13人と激減し、狩猟者の高齢化も問題となっています。こうした現状もあり平成5年頃から猪や鹿が増加しはじめ、主な狩猟の獲物も猪や鹿が多く捕獲されるようになったのだそうです。このような状況ではありますが、毎年狩猟期には猪・鹿併せて3、4百頭程度捕獲しています。有害鳥獣駆除隊をつくり行政と協力して農作物の被害防除にも積極的に活動しています。こうした活動はあまり表立つことではないですが非常に重要な責務を行っており、本当に敬意を表したいと思います。最後になりますが、現在狩猟の時期ですので、みなさん! もしハイキングなどで山に入るような場合がありましたら、是非目立つ色の服、明るい色の服を着用して入山してください。よろしくおねがいします。 役場狩猟課 奥平直生記者

消防団活動の紹介

今年の冬は特に寒さが厳しく、小正月に降った雪はなかなか解けず、ホカロン貼ってメタバオ気味の体に鞭打って... という方も多いのではないのでしょうか。もちろん私もその一人です。今回は私も所属している南牧村消防団の年末年始についてちよつと書いてみようと思います。年が明けてから昨年の話をすると鬼に叱られそうですが、毎年暮れの28日から消防団の各分団が交代で30日まで夜間の歳末警戒を行います。巡回の消防自動車“カラン・カラン”という巡回の鐘の響きに年の瀬を感じる方も多いのではないのでしょうか。そして除夜の鐘とともに新年を迎え、最初に行なわれるのが消防出初式です。4日の朝、防災無線から流れる消防団員召集のサイレンを合図に全員が甲種制服を身にまとって集合。村長から年頭の訓示を受け、消防団活動の一年が始まります。火災や災害などが発生した際に、消火・災害援助活動を行なうのも消防団ですが、平常時においても操法訓練や災害救助訓練、応急手当の講習、そのほか地域での消火器取り扱い訓練や避難訓練、お祭りの警備なども行なっています。南牧村は御存じの通り少子高齢化がどこよりもはやく進んでいます。そして年々消防団員の確保が難しくなってきたのが現状で、最盛期には12あった分団も現在は9分団に再編されました。しかし、人口が減って消防団員が減っても、村の面積が減ったわけではないので守備範囲は変わりません。まさに少数精鋭で、自分たちの仕事の合間を見てこなしているのです。もちろん勤務先の理解と協力、家族の理解と協力なくしてはできません。そして、ぜひ、村民の皆さんにも消防団活動への理解とご協力をお願いしたいと思います。

平成25年が、火災や災害のない平穏な年でありたい。そして村民皆さんにとって幸せな年となりますように。

南牧村消防団・一団員